



# 武州みたけ

第五十六号

奉納神楽の撮影では、張り詰めた空気を包まれながら一枚一枚大切にシャッター切る時の緊張感がたまりません。ダイナミックで躍動感溢れる姿と舞台に漂うオーラが表現でき るよう心掛けています。  
(写真・文 鶴巻育子)

# 第四十八回 武藏御嶽神社奉納俳句入選作品

応募総数 二百三十九句

選者 蓼 目 良 雨

## 特選

合掌に霧吹き上げ来遙拝所 狹山市 古谷 彰宏  
おほかみの護符貼る井戸や柿若葉 青梅市 津布久信雄  
天高く大口様へ奥参り 練馬区 川村能正  
蜩の声宿坊の朝まだき 文京区 宮本象三  
葉山葵を地酒のあてに御師の宿 新座市 長谷川 栄

## 秀逸

武田菱透かす障子や御師の宿 狹山市 古谷 彰宏  
御師の宿石落の庭隅白衣干す 狹山市 古谷 多賀子  
霧の珠目にも眩しき蜘蛛の網 足立区 中村 拓也  
登り来て神のお許の秋海棠 青梅市 西村 康治  
宿坊の板のきしみや秋の風 世田谷区 菊池 晃子  
新緑の嶺にこだます法螺の声 青梅市 久保田 享  
神殿に補宜のすり足漱氣満つ 新座市 長谷川 栄  
冬青空祝詞響くや御嶽山 我妻 達  
靄深く沈めて山や魂迎 県境郡 府中市 天地わたる  
山夕やけ雪舟墨をもてあます 渡邊敏雄  
秋高し石段駆ける子等の声 練馬区 河原日向子  
竹の節借りて華やぐ春の雪 長谷川 栄  
汝を待つ御嶽の一人静かな 世田谷区 中古 苑生  
御岳山夫婦で愛てる紅葉かな 東久留美市 新座市  
初詣舞茸天ぶらくるみ蕎麦 練馬区 川村 能正  
秋うらら途切れぬ傾斜一步ずつ 品川区 木村 玲子  
老鷺や雨のそぼ降る靄の中 天地わたる  
涼風や木陰に蓮華升麻あり 川村 能正  
支へある千年櫻小鳥来る 青梅市 内田 健太郎  
神聖な御嶽に入る冬の空 柏江市 津布久信雄  
鎌田典子

選者吟しづけさや霧満月の御嶽山

## 奉納俳句選評

合掌に霧吹き上げ来遙拝所 古谷 彰宏

蜩の声宿坊の朝まだき 宮本象三

奥宮を遠くに遙拝し祈りの合掌をした刹那、谷から霧が吹き上げてきました。御嶽の神と心が一つに繋がつたことを感じたことだろう。

神の息吹の霧に触れた作者は幸せだ。

御師の人々は早起きだ。それよりも早く山では蜩が鳴き始めたところを描いた。

寝床の中で山の動き始める気配に耳を欹てる作者が見える。

おほかみの護符貼る井戸や柿若葉 関 迪子

葉山葵を地酒のあてに御師の宿 長谷川 栄

神話の時代から山岳神の守り神はおほかみだ。山を生活の糧にしている人はおほかみの気配の中に生きている

都會で生活するものにとって、宿坊の料理は新鮮である。どれも捨てがたい。

人はおほかみの気配の中に生きている。宿坊の景色だろうか、井戸におほかみの護符が貼られ日々の安寧が保たれている。柿若葉が実に美しい。

今晚の突き出しは葉山葵のお浸し。地酒の素朴な旨さとよく合うことよ。

天高く大口様へ奥参り 川村 能正

四季を通じ「御岳山を題材」とした俳句を募集しております。

秋晴れの一日。奥宮にあるおほかみの神へお参りした。険しい山道を物ともしない心意気が素晴らしい。山の神さまに親しむことが心身の安寧を招くことに繋がる。

大勢の方の投句をお待ちしております。

## 第四十九回

### 奉納俳句募集要項

一、作品は未発表に限る

二、受付は指定用紙にて投句箱へとする  
(郵送等直接の受付は致しません)

一、締切り 令和四年一月十五日  
一、発表 令和四年三月中旬

四季を通じ「御岳山を題材」とした俳句を募集しております。

## 選者ご挨拶

悠久の歴史を秘める武藏御嶽神社の奉納俳句の選をする榮に浴し身の引き締まる思いです。

前任の岡田日郎先生の徹底した客観写生の俳句を私も心掛け、武藏御嶽神社の素晴らしいを俳句で記録するお手伝いをさせていただく積りです。

俳句は大自然から授かるものというのが私の考えです。日常の殺伐とした生活を抜けて御嶽山の中に飛び込み身も心もリフレッシュすれば必ず俳句は生まれてくる筈です。何度もお山に登り、四季それぞれの武藏御嶽神社の素晴らしいを体感すればきっと良き俳句が得られることでしょう。皆さまの素晴らしい作品に出会えることを期待いたします。

墓 目 良 雨

### 選者略歴

墓 目 良 雨（ひきめり ようう）  
昭和17年埼玉県生まれ。本名・駿英。

『春耕』皆川盤水・『風』沢木欣一に師事。昭和63年に『春耕賞』を受賞。現在、『春耕』副主宰兼編集長・『東京ふうが』主宰・『塔の会』会員・俳人協会監事をつとめる。「お茶の水俳句会」「皆中句会」「神保町句会」「春耕同人ネット句会」にて句会指導。芭蕉研究、蕉村研究を長く手がけ、現在は高野素十の研究を行っている。

また、『春耕』誌上に「鑑賞 現代の俳句」「俳句に向き合う基本」「盤水一句鑑賞」を、『東京ふうが』誌上に「素十俳句鑑賞」を執筆。句集に『駿河台』『神楽坂』『菊坂だより』『九曲』『2009一日一句集』ほか、著書に『平成 食の歳時記』詩歌集『酔うきぐ』、その他編著若干。

## 節分 『一二四年ぶり、二月一日の節分祭』



令和三年となり、立春の前日が一二四年ぶりに二月一日となつた本年の節分。コロナ禍での二回目の祭礼となりました。例年の年男・年女による追儺式では、福豆を拾われる方々で賑わつておりましたが、緊急事態宣言下での節分祭となり、追儺式の参列や福集めの皆様には来社をご遠慮いただき、宮司・祭員のみでの執行となりました。厳粛な空氣の中、追儺の儀では、晴れ渡る青空の下で皆様の厄難消除と新型コロナウイルスの終息を祈り、関東平野へ向かい厄除・招福の豆を声高々に撒かせて頂きました。

また、全国的に珍しいと思いますが、節分の当日、御嶽神社の神職達は山を下り、青梅市内を始め、あきる野市・福生市等まで足を伸ばします。これは節分祭へお申し込み頂いたものの、当日のご参列が厳しい企業様や個人宅へ神職が伺い、豆まきをさせて頂くのです。今年は参列をご遠慮頂いたため、数百件の豆まきをさせて頂きました。感染防止のため小さな声での追儺の儀となりましたが、神職がお伺いして執り行う追儺の儀は、例年以上に大変お喜びいただき、私たち神職も喜びも一入でした。来年の追儺の儀が、大きな声で鬼遣らいと福招きが出来ますよう、そして一日も早く日常を取り戻し安心した生活が送れますよう、これからも祈念してまいります。

※節分祭年男・年女のお申し込みは、年明け一月中旬より承ります。  
※ご自宅や会社での追儺式をご希望の方はお電話にてお問合せください。  
(配札範囲は、青梅近郊となります。)

※遠方の場合、祈祷札・福豆等は発送させていただきます。



「追儺の儀」の様子  
写真提供：炭鳥蔵 I K A D A

## 「みたけとおひなさま」

—「三十六歌仙絵額」と「古今雛」—

齊 藤 憲 一

日本人形玩具学会会員

江戸時代も中頃、江戸の市民達は古今集風の和歌、古典を念頭にした俳諧をたしなみ、源氏物語や枕草子への興味も生まれました。幕府の「歌道方」であつた北村季吟（一六二四～一七〇五）の「源氏物語湖月抄」「枕草子春曙抄」も刊行、流布しています。

北村季吟の弟子であつた松尾芭蕉の「内裏雛人形天皇の御宇とかや」（俳諧「江戸広小路」延宝二年（一七八七）序）は、内裏雛の初期の例ですが、雛人形に平安時代の優雅さを造型しようとした氣分を伝えています。内裏とは、平安時代の皇居、転じて天皇のことです。天皇を連想する一対の坐り雛が男雛は冠に「束帶」で、女雛は俗に「十二单衣」という「裳唐衣」に似せた姿であつたわけです。（人形天皇の御宇とかや）の部分は在原業平の恋物語の能「杜若」の詞草です。

武藏御嶽神社の拝殿には、弘化二年（一八四五）に、新しくした、平安時代の勅撰和歌集の筆頭「古今和歌集」などの名歌人（歌仙）三十六人の歌と絵姿を描いた「三十六歌仙絵額」三十六面が飾られていました。

古今集に登場する歌人の優美な絵姿は、すでに鎌倉時代に定型化して何種類も存在しました。それらを模写した

「紛本」（模本）は、平安時代以来の「倭絵」でした。御嶽神社の「三十六歌仙絵額」三十六面もそれによっています。

こうした三十六歌仙絵額は、江戸を中心とする徳川家造営の社殿、下野の日光、武藏の川越、江戸上野の各東照宮の拝殿に掛けられています。御嶽は、慶長十一（一六〇六年）に二代将軍秀忠、元禄十三年（一七〇〇年）に五代将軍綱吉の造営（公儀普請）です。御嶽の拝殿にも、今度の調査で「三十六歌仙絵」が以前から存在した可能性を推定できる次の記録が見つかりました。

享保四年（一七一九年）の「武州御嶽藏王権現内陣神宝目録」（黒田忠雄家文書）に「拝殿」に宝物として「百人一首歌いた一枚ニ一人ツゝよむ歌 いた数八枚有り」の記述です。「百人一首いた」とは、百人一首の読み札のよう、歌人を描いていた板額で、元禄十三年には拝殿に掛けられていた「三十六歌仙絵額」の残りと思われます。

江戸時代の人々にとって、倭絵風の王朝姿の歌人が極彩色で描かれた三十六歌仙絵は、内裏雛の姿など、平安風雛人形づくりの参考になつたことでしょう。しかし、歌仙絵もそうですが、平安貴族の衣裳は織物で地味なので、金襴・錦の華やかな文様に、引目勾鼻も今風の美形に存在しました。それらを模写した

変えられました。姿形は歌仙絵の平安風、色彩、目鼻立ちは江戸好みです。こうして江戸時代後期十八世紀後半頃には、新しく江戸で「古今雛」という様式が規格化されて一世を風靡し、現在みる雛人形の十五人揃いに発達したのです。

文化年間の川柳にいう「祖母次郎左母つっぱりに嫁古今」という古雅な次郎左衛門雛から、袖をつっぱた享保雛へ、そして今の古今雛という変化です。今様の江戸好みの古今雛を考えだしたのが、人形師の原舟月の初代と二代とされ、特に二代目三代目の名作が残りますが、二代目は古今亭、三代目は古今齋と称したことは、まさに平安風をより江戸人主体の雛人形の新様式、流行の「古今雛」創始、製作の作流の誇示でしよう。しかも「古今」とは江戸時代の和歌の本流「古今和歌集」に由来し、古今集の三十六歌仙の絵姿を重ねたからでしょう。当時平安時代という歴史用語はなかつた。古今雛について当時の人形問屋は「女性このみ」で、「柔軟なもの」と説明しています。まさに、江戸の武家から町人までが学んだ「古今和歌集」の女性的美学の「手弱女風」です。三十六歌仙絵には、内裏雛の束帶や裳唐衣姿を、様々な姿態、方向から描いてみせ、「矢大臣」など、弓矢を持つ武官（近衛の中・少将）の在原業平や藤原高光も描かれます。もしかすると「古今雛」に矢大臣を加えたのは、三十六歌仙絵の影響かもしれません。

武家と町人の都・江戸の好みに造型した武家好みの能楽の五人雛子、天皇がつけるはずのない太刀を男雛に佩せ、女雛の頭に天冠をのせ、有職に反する二重眉であるのは古今雛が江戸からの空想・想像の所産であった証拠です。江戸の雑俳「桃の花のさかりなりけり内裏雛」とは江戸での時空を越えた想像の平安（古今）時代へのあこがれの事情を端的に伝えます。

青

梅の文人、大奥出入りの古道具商

山田屋 黒田庄左衛門徳雅の「永久田

家務本伝」に「古今雛」の流行の頃、

一七七〇年代の追憶として「内裏雛には

母と姉の在り候頃は、江戸へぬり直しに

遣わし、ぬりかへ候て、衣裳は母の□□

□錦をとり候て仕立られ候よし。昔形な

がらよき雛と存じ候」と述べています。

修理にあたいる雛が青梅の町屋に伝えられ、錦の衣裳着の雛が愛玩されています。王朝を偲ぶに足る三十六人の平安時代を偲ぶよすがの、古今和歌集のころの貴族達の絵姿が、青梅の町に近き武藏御嶽神社拝殿に掛けられていました。江戸人の文化の状況を、ゆかしく思います。

また、青梅住吉祭礼五月二・三日に、

青梅本町の会所に飾られる神功皇后と武

内人形は、江戸末期の田熟した三代古今

齋原舟月の名作で、胡粉仕上げの肌理も

見事な貴婦人と老臣の容貌に、すぐれた

「古今雛」の制作者の手際を鑑賞するこ

ともできるのです。

# みたけの重忠くじら

作たいやきジロー



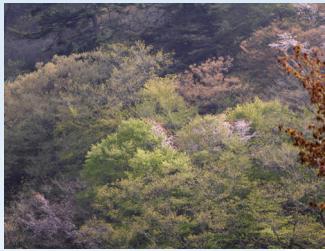
## ムサくんだより

御岳ビジターセンター

### 「森のパレット」

里より少し遅れて、御岳山に春が訪れます。

花が咲き始め、木々が芽吹き、虫や鳥が活発に活動を始める・・・そんな春の御岳山で、森の「色」に注目してみてください。そこにはたくさんの「色」が溢れていって、森の個性を際立



「春の御岳山」  
みどり色、淡いピンク色など、春は森の個性が感じられる季節です。

たとえば、「みどり色」。

皆さんは、日本語で「みどり色」を表す言葉がどのくらいあると思いますか？

私が確認したものだけでも、なんと三十七種類もありました。たしかに森の中の「みどり色」は、濃いみどり、やわらかいみどり、黄色がかつたみどり、など多様です。

春の森では、他にもさまざまな「色」を見つけることができます。ビジャーセンターから神社の森や日の出山方面を眺めると、まるで色とりどりの森のパレットが目の前に広がっているように感じます。皆さんも、遠くから、近くから、ぜひ観察してみてください。



やわらかなみどり色のカエデの葉

### 当社へお越しただけない 崇敬者の方へ



本来は、神社にご参拝いただき、祈

禱札・お守りを直接授与させていたたくところですが、当社の標高は約

1000mの山頂に鎮座しているため、諸事情によりどうしても参拝の叶わない方がいらっしゃいます。

また、近年は新型コロナウィルス感染症対策等の影響により、外出が制限され一層参拝が厳しい社会情勢となっております。

諸般の事情で、どうしてもご来社が叶わない崇敬者の方の為に、郵送等

(国内のみ)による発送も承っております。

発送をご希望の方は、

「住所・氏名・電話番号」

に下記を添えて、お電話またはFAX、

封書でお申込みください。

- 祈祷札の申込み☆
- 願意（願い事は二つまで）
- 玉串料 三千円・五千円・一万円
- 一万円以上

(神棚の高さに制限のある方はご相談下さい)

○ 人生儀礼祈祷の場合

危除け・初宮等の方は生年月日を必ずご記入下さい

☆お守り☆ お守りの種類と個数

☆門札☆

大口真神札・火難除け・疫病封じ等  
門札の種類と枚数

☆愛犬祈願☆ 愛犬の名前と願意

(願い事は二つまで)

☆犬形代☆

枚数

※ 送料を申し受けます(宅急便は着払い)  
※ 山頂の為、お手元へ到着まで、数日かかります。お急ぎの方は余裕をもつてお申し込みください。

※ 祈祷の願意・お守りの種類等ご不明点がある場合、お電話にてご案内させていただきます。

○ 電話受付時間：9時～11時  
お電話のかけ間違えにご注意ください  
電話・〇四二八・七八・八五〇〇

お申込いただいた願い事とお名前を神前にてご祈祷した後、発送させていただきます。

## 社殿修理報告

## 旧本殿『常磐堅磐社』

昨年六月より行つて参りました旧本殿「常磐堅磐社」の漆塗り替え工事が、東京都と青梅市からの補助と崇敬者様のご奉賛等により、日光市の(株)鈴木美術漆工芸の匠技にて、この三月お陰様で無事完了致しました。約十ヶ月を要し丁寧に塗り替えられ、公儀普請を反映した美しく壮麗な社殿が往事の姿でよみがえりました。

この旧本殿は昭和二十三年、国的重要美術品に指定、昭和二十七年には東京都有形文化財に指定されました。一間社流造、檜皮葺型銅板葺で間口2.5m、奥行2.14m、基壇は壇上積、屋根には鬼板付箱棟に千木と堅魚木を配し、彩色は黒漆塗を基調として弁柄漆塗と金箔を用い、飾り金物を多用した華麗な建造物で、都内では数少ない桃山様式を留める本殿建築の一つです。現在の本殿(神明造)を明治十年に造替したために、常磐堅磐社として現在の場所へ移築されました。旧本殿には、永正八年(一五一一年)に三田弾正忠氏宗・政定が修復した棟札が残り、慶長十一年(一六〇六)に徳川家康により再建した事を記す鏡台の墨書き銘、元禄十三年(一七〇〇)五代将軍綱吉による改修の棟札が残されています。昭和五十四年の三月の大風で西側の大杉が倒れ破損したため、昭和五十八年東京都により修理工事が行わされております。

公儀普請の優れた本殿建築「旧本殿」は境内玉垣内にございます。全国一の宮の神様をお祀りしておりますので、是非ご参拝下さい。



## 旧東照社『皇御孫命社』・『東照社』



令和元年十一月より、皇御孫命社および東照社の腐朽修理工事を青梅市の補助を受けて行いました。木工事部分には漆も施し一新致しました。

この修理工事で皇御孫命社の浜床の腐朽が屋根からの雨漏が原因であることが解ったため、急遽神社では、令和二年春より屋根復旧工事を行うこととなりました。銅板の下はかなりの腐朽・亀裂が進んでおり、屋根部分を半解体して工事を進める事となりました。

この社はかつて東照社として元禄十三年に造営した記録が棟札に残ります。「新編武藏風土記稿」には、「檜皮葺高欄造」で「御紋散して廻り三間四方の朱塗りの瑞籬を構へり」とあります。工事前は瓦棒銅板葺で複雑な屋根の軒先に三葉葵の紋が配されていました。江戸末期に瓦棒葺きに変えたものと思われます。今回の修理では、雨漏りの原因となつた瓦棒葺きを応急処置的に平葺きに変更しましたが、建設当初の面影をうつす形となり、重厚な趣のある皇御孫命社(東照社)となりました。常磐堅磐社の右前に鎮座し、現在は天瓊々杵命をお祀りしています。門の前には珍しい狛猪が置かれています。



皇御孫命社



## 神社の社（五十六）

## 「ありー」んな御札ありました？』

片柳 茂生



右から「養蚕札」・「昆蟲除札」・「盜難除札」・「大祓札」

稻や野菜につく虫を除けるお札、農薬など科学的に駆除できるようになつた今では神様にお願いすることでは無くなつてしまつたのかかもしれません。また、養蚕札は、宇氣母智神（保食神）の文字、それと稻穂と桑の葉を持つ女性神の姿が刷られたお札です。どちらも需要や養蚕業が減つた今では殆ど頒布されることが無くなつた札で、存続が危惧されるお札です。

それとは反対に、昨年から急に脚光を浴びてきたお札があります。それは、「御嶽神社厄神祭」と称される切札です。このお札、札を江戸の昔より信者の皆様に頒布しています。代表な御札が才オカミの御姿を映した「大口真神」の神符です。このような紙一枚に刷つた神符を当神社では切札と称しています。切札といつてもこの御札が「とつておきの御札」とか「この御札が最後の手段」などという意味ではないようです。

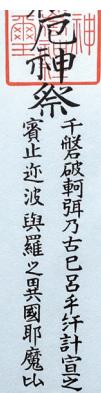
神社に設置された茅輪を数字の八を書くように三回ぐり、最後にこの札を頂戴し、帰つて家の入り口（表と裏）に貼るのが習わしです。なぜこのお札が注目されたかというと、それはお札に書かれた文に隠されていました。

神社の神符授与所には置かれていましたが、講中札・参拝札・盗難除札・養蚕札・昆蟲除札などの切札も頒布されています。昆蟲除札は

たり「千磐破軋弭乃古巳呂乎汗計宣之賓止迹與羅之異國耶魔比」と書かれている非常にシンプルな切札です。ここで重要なのは下方に書かれた二行の文です。読みについては不確かなことを書くことができるので控えさせていただきますが、意味は「御神威に依つて、異国から入つて来る病気を封じ人々をお護ります」と解釈でできます。これはまさに新型コロナウイルス感染症に対処するような内容ではありませんか。

昨年は、コロナウイルス感染によって妖怪アマビエもその存在を広めました。そして当社の「御嶽神社厄神祭」のお札も百年以上の大茅輪が片付けられるほぼ一週間だけ地元を中心に頒布されるお札です。

茅輪を江戸の昔より信者の皆様に頒布しています。代表な御札が才オカミの御姿を映した「大口真神」の神符です。このような紙一枚に刷つた神符を当神社では切札と称しています。切札といつてもこの御札が「とつておきの御札」とか「この御札が最後の手段」などという意味ではないようです。



## あとがき

最後に、この半年間を無事に過ごせたことを御嶽大神に感謝し、

毎年丁寧に教授下さる先生方、ご奉納頂きました皆様、各種祭典や行事に御協力・御協賛下さいました崇敬者の皆様、各所関係機関の皆様に厚く御礼申し上げます。また、日本人形玩具学会会員 齋藤慎一先生、写真家鶴巻育子様、玉稿を有難うございました。

令和三年 三月十五日発行  
〔年二回発行・非売品〕

編集 武藏御嶽神社

TEL ○四三八（七八）八五〇〇  
FAX ○四三八（七八）九七四一

<http://www.musashimitakejinja.jp/>

今世界中がコロナウイルスに翻弄されている中、お陰様で新年の初日の光と共に清々しく迎える事ができました。また神社では皆様が安心・安全にご参拝頂けるよう、トイレや待合所など参拝者が触れる場所へ、コロナウイルスも不活化する抗ウイルス・抗菌無光触媒（SKYBE-783）を施工致しました。まだまだ予断の許さない状況ではありますが、ワクチン接種など明るい兆しも見えております。今は頑張り時と、神職一同皆様のご健勝をご祈念し日々過ごしております。